



2016/7/28 VIVA ALPS MUSIC FES! 伊那谷発アースデイ実行委員会

「VIVA ALPS MUSIC FES! 伊那谷発アースデイ」 イベント報告書

伊那谷発アースデイ

VIVA ALPS
MUSIC Fes!

＜日時＞ 2016/6/12(日) 10:00～17:00

＜会場＞ かざこし子どもの森公園(飯田市)

＜主催＞ VIVA ALPS MUSIC FES! 伊那谷発アースデイ実行委員会

＜後援＞ 長野県、長野県教育委員会、飯田市、飯田市教育委員会、
伊那市、大鹿村、南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会、
南アルプス世界自然遺産登録山梨県連絡協議会、南信州新聞社、
信濃毎日新聞社、中日新聞社、飯田エフエム放送、SBC長野放送

＜協力＞ IIDA WAVE,子どもの森セカンドスクール

＜お問合せ＞ 090-6499-2978 (森田) vivaalpsmusicfes@outlook.jp

VIVA ALPS MUSIC FES! 伊那谷発アースデイ とは?

開催概要

「Viva Alps Music Fes! 伊那谷発アースデイ」は、南アルプスがユネスコエコパークに登録されちょうど2周年記念日にあたる6月12日、伊那谷や南アルプスの豊かな自然を大切に思う仲間たちによって開催されたアースデイイベントです。南アルプスとその周辺地域の自然の類まれな豊かさやその中で育まれた文化などが世界的に高く評価されていることを知ってもらうことで、自然に恵まれた伊那谷の環境のすばらしさにみんなが気づくきっかけになってほしいという願いから企画しました。音楽・出店・展示・ワークショップ・トークライブ等を通じて、参加者のそれぞれが、自然の中での気持ちの良い暮らし、伊那谷の魅力とそこで生きることの素晴らしさを表現しました。子どもからお年寄りまでさまざまな方々に安心して楽しんでもらうことができ、これから生き方についてビジョンを共有できた1日になったと思います。



実施概要

名称 Viva Alps Music Fes! 伊那谷発アースデイ

日時 2016年6月12日（日）10:00～17:00

会場 かぎこし子どもの森公園（〒395-0077 長野県飯田市丸山町4-5501-1）

主催 Viva Alps Music Fes! 伊那谷発アースデイ実行委員会

後援 長野県、長野県教育委員会、飯田市、飯田市教育委員会、伊那市、大鹿村、

南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会、南アルプス世界自然遺産登録山梨県連絡協議会、

南信州新聞社、信濃毎日新聞社、中日新聞社、飯田エフエム放送、SBC長野放送

協力 IIDA WAVE,子どもの森セカンドスクール

協賛 天竜舟下り株式会社／飯田信用金庫／城南信用金庫／(株)エースリフォーム／(株)アルファーシステム／三伏峠小屋／

Le Jou Jou／ココダニクリエイト／ナマケモノ俱楽部／キャンバス／(株)漆喰九一／大鹿の100年先を育む会／

赤石荘／するぎ農園／赤石荘／四徳温泉キャンプ場／ユレイの宿 惠山／スタービレッジ阿智誘客促進協議会／

たあくらたあ／てくてく／たろう屋&gato/COCORO FARM VILLAGE／カフェマヤ／Over the Rainbow／

長田屋／ビーバー／そらくぼ／Pippino／PAL'S／カフェ狐／納々屋／他+個人サポーター59名



各種メディアでの紹介

ラジオでの紹介

- ・SBCラジオ 5/21（土）ハートフルサタデー
- ・飯田FM 5/31(火), 6/1(水)
- ・FM長野 6/10（金）エコチル信州応援団

新聞掲載

- ・南信州新聞／中日新聞／信濃毎日新聞／読売新聞等

雑誌、その他

- ・月刊いいだ／週刊いいだ／あいなび／広報いいだ／ベラ／月刊まじめ等

インターネット

南アルプスユネスコエコパーク公式サイト／伊那谷自然友の会／
中日環境net／Yahoo!japan／じゃらん／えきねっと（JR東日本）／
日本の歩き方／観光日本／iida2.com／楽園信州／ヤマレコ／日和／耕Life等
参加団体の各ウェブページでも多数情報を掲載していただきました。

チラシ・ポスターも飯田市内の各小学校・各公共施設・お店をはじめ、
飯田市以外の県内地域から関東に至るまで、多数のレストラン、カフェ等に
置かせていただきました。

本イベント開催について、新聞、ラジオ、月刊・週刊誌・ウェブなどで紹介していただきました。
メディア関係の皆さん、ありがとうございました！

掲載された記事（一部）

月刊いいだ6月号

中日新聞 6/8 18面



2,000人を超える動員数※推測

正確に数を計ってはいませんが、イベント経験豊富な会場の担当者の方の推測によると2,000～2,500人くらいは来場者があったようです。

初めてのイベントで予想がつかないため、当初 600人の来場者数が目標でしたが、それをはるかに上回りました。その要因は、飯田市で竹林整備に取り組んでいる団体「天竜川鷺流峡復活プロジェクト」のネットワーク、飯田市の各小学校へのチラシ配布、多数の店舗・ワークショップ・ミュージシャン・展示者の参加によるその周囲への広報、ネット上の情報拡散などにより広がっていったことなどが考えられます。また、トークライブに各分野で活躍中の著名なパネリストたちの参加、音楽ライブの特別ゲストにも大きく注目があり、後半特に多くの来場者がありました。

○来場者の内訳…受付で来場者と話した感覚では、7割が下伊那地域、2割が県内・下伊那地域外、1割が県外（東京、神奈川、岐阜、愛知、三重、京都等）

多彩な音楽で盛り上がったライブステージ！

【出演】森田修史伊那谷スペシャル(阿智村)、内田ボブと大鹿村の仲間たち(大鹿村)、Pippin(飯田市)、Band Age (飯田高校)、かむあそトライブス(岐阜県)、サブニュマ(中川村)



各分野で活躍中のメンバーが結集したトークライブ！ 「伊那谷発！新しい暮らし方」

辻信一さん 文化人類学者、環境運動家。明治学院大学国際学部教授。スロー・ムーブメントの中心的存在。

吉原毅さん、城南信用金庫前理事長。脱原発宣言をし、クリーンエネルギーの導入を推進してきた。

松島信幸さん 理学博士。南アルプスの地形・地質研究の第一人者。飯田市美術博物館顧問。

北澤奈菜さん 高校時代、音楽コンテスト「T h e FINAL 2 0 0 5」でグランプリ受賞。

曾根原宗夫さん 天竜舟下りの企画室長・船頭。天竜川鷺流峡復活プロジェクト代表。

杉浦夏音さん 伊那谷在住の高校生。映画「誰も知らないみつばちのものがたり」の蜜蜂の一匹。



松島 南アルプスと一般に呼ばれる赤石山脈は新しく、今も成長している。伊那谷は、地殻の運動が非常にバラエティに富んでいて今も動きつつあるので環境が非常に豊かだ。河岸段丘や扇状地がこれほどたくさん寄せ集まっている盆地は他にない。こういう場所は水や植生といった、人間にとって一番必要なものが豊かな土地であるのに、そこに居る人達がそれに気付いていない。今この地域で最も問題なのは、動いているこれらの山脈にトンネルを抜こうとしている事だ。土木技術としてはすばらしいがよく持って100年だし、南海トラフ地震が起きれば山地の崩壊が多発するだろう。経済収入を保証される企業とか官庁に生きるために皆が入るようになって、どんな農繁期でも経済優先で田んぼに入らない人が増えたがそれは間違っている。地域のなかで新しい生き方をみつけてほしい。

北澤 皆が進学などで出て行ってしまうなか自分は飯田に残ることを選んだが、その理由は青い空、山や田んぼの緑、夜の綺麗な星、昔から続いている良さは変わらぬ必要が無いと皆が知っている所。人と人の距離が近くてどんどんつながれる所。一度外に出て外のこともわかった上で、力をつけて帰って来て、飯田の良さを再認識してもらえるのがこれからは大事だ。

杉浦 歩いて帰宅する途中に自然を見ながら歩けるすばらしさ、会う人たちが皆知り合いで家族的につきあえる安心感。また水がおいしいということが本当にすばらしい事で、野菜も他地域と比べてどれだけおいしいかというのを改めて知ると本当に幸せなところに生まれて住んでいるといつも感じる。

曾根原 船頭として気付いた重要なことは、水が循環し続けている事。海にいったものが雲になって、また山で雨がふる。下流の人達にいつまでもこの状態の健康な水を送り届けたいという気持ちから天竜川鷺流峡復活プロジェクトを始めた。竹が増えすぎて広葉樹が枯れて景観が悪化し不法投棄まで招いていた放置竹林の問題を解決するために竹林伐採を始めたところ、竹の有効利用として天竜舟下りのルートである筏流しを思いつき、竹筏として使ったあとは燃料化し、さらに最後は堆肥化するという循環を作ることができた。一緒にやることになった地域の人達の力が想像以上にすごく、穂先をメンマにして食べるという話まで生まれどんどん生活にプラスになった。燃料としての竹は、直径12cm長さ1.5、6mの竹3本を燃やすと灯油1.8ℓの燃焼カロリーと同等だ。

吉原 グローバル経済のなかで、自分だけがお金を集められれば良いという自分本位さが公害問題や原発問題の原因だ。地域のなかで人や自然との関わりのなかでお互いにうまくやっていこうというローカル経済が大切で、それをお手伝いするのが信用金庫の持つ地域金融の役割だ。飯田には移住者も多いがグローバル経済の魅力だけでなく危険性を知った人達がローカル経済を守りながら面白くしていければいい。地域に根ざした地産地消エネルギー、自然エネルギーのビジネスが世界中で発展していて、日本でもその余地がある。それこそが地域が発展する起爆剤になる。自然環境を壊すと、取り返しのつかない問題がある。原発もリニアも、一度決めるとなれば無用になってお金や法律のことばかりでみんなの幸せを考えなくなりかえってマイナスの公害問題などを残すのではなく、コミュニティや環境等の視点からもっと慎重に考えるべき。

辻 今の日本の問題は健康の問題をはじめとして自然と人間が切り離されていることが関係している気がする。今世界で半分以上が都市人口だがこれは人類史的に言うと大変な未知の状況だ。田舎はただ原料や食べ物を供給する場所とする傲慢さが気候変動や公害を招いている。今迄はグローバル経済といって巨大企業が自分たちの利益を最大限にするためにルールを全部変えて、ローカルを犠牲にし、人々は都会を行った。しかしグローバル経済が生んだ環境問題をなんとかするには、これを逆に向かうしかない。地域へと発想を転換させた時、足下に必要なものは全てある。目先のお金という都会型の経済の発想ではなく、子供達孫達のことを考えて今もう一度経済を組み立て直す発想の転換にこそ未来がある。「懐かしい未来」という言葉があるが、自分たちの描く未来に、自分たちが暮らしたいか、自分の孫達に暮らして欲しいのか。水がおいしくて、夕暮れの風景に感動できるような、毎日生きる実感の持てる暮らし以上に必要な物はあるのだろうか。今日はすばらしいお話をありがとうございました。（敬称略）文字起こし／遠野みどり 要約・文責／森田修史 ※トークライブ内容全文は参加者の了承を得てからHPに掲載予定です。



伊那谷の内外から多様な80店舗が参加！

地元食材や湧水を使った料理、エスニック料理、天然酵母パン、オーガニック・フェアトレード・自然素材・手作りの雑貨等、心も体も喜ぶ素敵なお店が大結集しました。「見たいお店がいっぱいある。もう1日やってほしい」という声もあり、大好評でした。



多様な出店者が彩るマーケット

- ・伊那谷を中心とした個人商店・飲食店
- ・保育園・フリースクール等
- ・障がい者施設
- ・NPO/NGO団体などが参加

参加店舗内訳

飲食店（持込販売含）	24店舗
雑貨店	21店舗
リラクゼーション	6店舗
フリーマーケット	27店舗
その他	2店舗 (南アルプスユネスコエコパーク、協賛ブース)
合計	80店舗

フリマ以外は、7割が伊那谷、1割が県内（伊那谷以外）2割が県外（東京、神奈川、山梨、愛知、三重、岐阜等）からの出店でした。

展示コーナー



南アルプスや伊那谷の魅力を伝えたり、ユネスコエコパーク登録について知ってもらうため、わかりやすいパネル展示や南アルプス写真展（広瀬和弘さん撮影）、大鹿村写真展（前島久美さん撮影）も同時開催！また各NGO/NPO団体や一般市民も、伊那谷や日本で危惧されている環境テーマについて、出店ブースの間で展示&説明をしました。

○クイズラリー ○パネル展示 ○関連グッズ販売



南アルプス市ユネスコエコパーク推進室から記念バッジを提供していただき、クイズラリーに参加した先着30名にバッヂをプレゼントしました。クイズラリーで、飯田市と南アルプスユネスコエコパークとのつながりについて初めて知った人も多かったようです。

天竜川鷲流峡復活プロジェクト+MOKI製作所presents… “放置竹林を油田に変える魔法のブース”



ティピ設置にて発生した竹の枝などを燃料にして…



竹ボイラにて沸かしたお湯を足湯として提供



竹も燃やせる薪ストーブの数々の展示と実演。



細い竹を用いて行われた参加者によるバウムクウ henは見事な焼き上がり。



竹エネルギーで…遊んで、あつたまつて、おいしく食べる！

放置竹林を生かして里山再生に取り組んでいる「天竜川鷲流峡復活プロジェクト」がモキ製作所と連携し、足湯や料理など、来場者が楽しみながら竹の可能性を実感できるブースを提供してくれました。



これは集中して取り組め、しかも飽きずにできる！それに全く知らない隣の方と同じ目的を持って同じ時間を共有でき色んな話ができた！これはイイ☆



参加者の声

自然エネルギーというとソーラーパネルばかりイメージしていたが、伊那谷の竹林整備をしながらエネルギーとして使えるなんて素晴らしい。

お隣では繊細な竹細工の竹工房 AMPLIOの田中瑞波さんの展示と実演も行われました。この一体はまさに伊那谷の竹の魅力と可能性を観て体感して味わって感じられる空間となっていました。



そして無煙炭化器を用いての炭作りを行い、出来た炭の熱を利用した「手焼きパンマー（竹）クウ hen」と竹で「タケノコご飯炊き」。

ワークショップ

伊那谷を中心に、北信、東京からも講師が来て、多様な体験型ワークショップを提供してくれました。



藤でキャンディケースづくり



大好きな伊那谷を大きな絵にしよう



ツリークライミング

ワークショップ一覧

「アイヌのカムイユカラの世界を体験しよう」「みんなで大好きな伊那谷を大きな絵にしよう」「青空ヨガ」「ツリークライミング」「あなただけの世界で一枚のアート＆メッセージ」「未来の手紙」「麦わらで作り光のモビール『ヒンメリ』」「刺繡のしおりワークショップ」「藤でキャンディケースを作ろう」「竹ひごで編む指輪づくり」「羊毛フェルトのアクセサリー作り」

「わたしのひとしづく」

環境のために今やっていること、これからやりたいことを一人一人が書くコーナー。



収支報告

収入		料金	備考
内容			
協賛金・1コインソポーター		169,000	
当日売上	出店手数料（売上10%）	97,382	飲食、雑貨（フリマ以外）51店舗
	フリマ手数料	18,345	27店舗
	当日寄付（パッジ売上含）	8,276	
		293,003	



支出		料金	備考
内容			
出演者への謝礼	ミュージシャン等	127,854	
会場	ティピレンタル代	30,000	
	会場使用料	14,076	
印刷	仮チラシ	4,050	1,000枚
	ポスター	6,030	100枚
	本チラシ	37,700	10,000枚
	当日配布配置図・クイズラリー	6,250	500枚
看板	看板レンタル	3,024	400円×7個 原鉄
	土嚢袋	456	
	雑貨（ラミネート、ボンドなど）	356	
	看板設置料（警察）	2,300	
シャトルバス	運転手への謝礼	10,000	
	ガソリン代	2,073	
駐車場	丸山小グラウンド使用料	1,950	
	駐車場バイト代	12,000	
	動画撮影謝礼・交通費	10,000	KUMAさん
	展示者への交通費	4,000	
展示（環境系）	雑貨（文房具類）	4,712	
	写真プリント代	3,888	
ミーティング資料	印刷代	1,800	
保険	ボランティア保険（社会福祉協議会	1,400	
送料	チラシ関係者送付	4,092	
	ガーランド着払い	1,304	
	薪ストーブ送料	1,304	写真コンテスト賞品
	ロケットストーブ送料	2,384	写真コンテスト賞品 箱代込
		293,003	

収支バランス 293,003-293,003=0